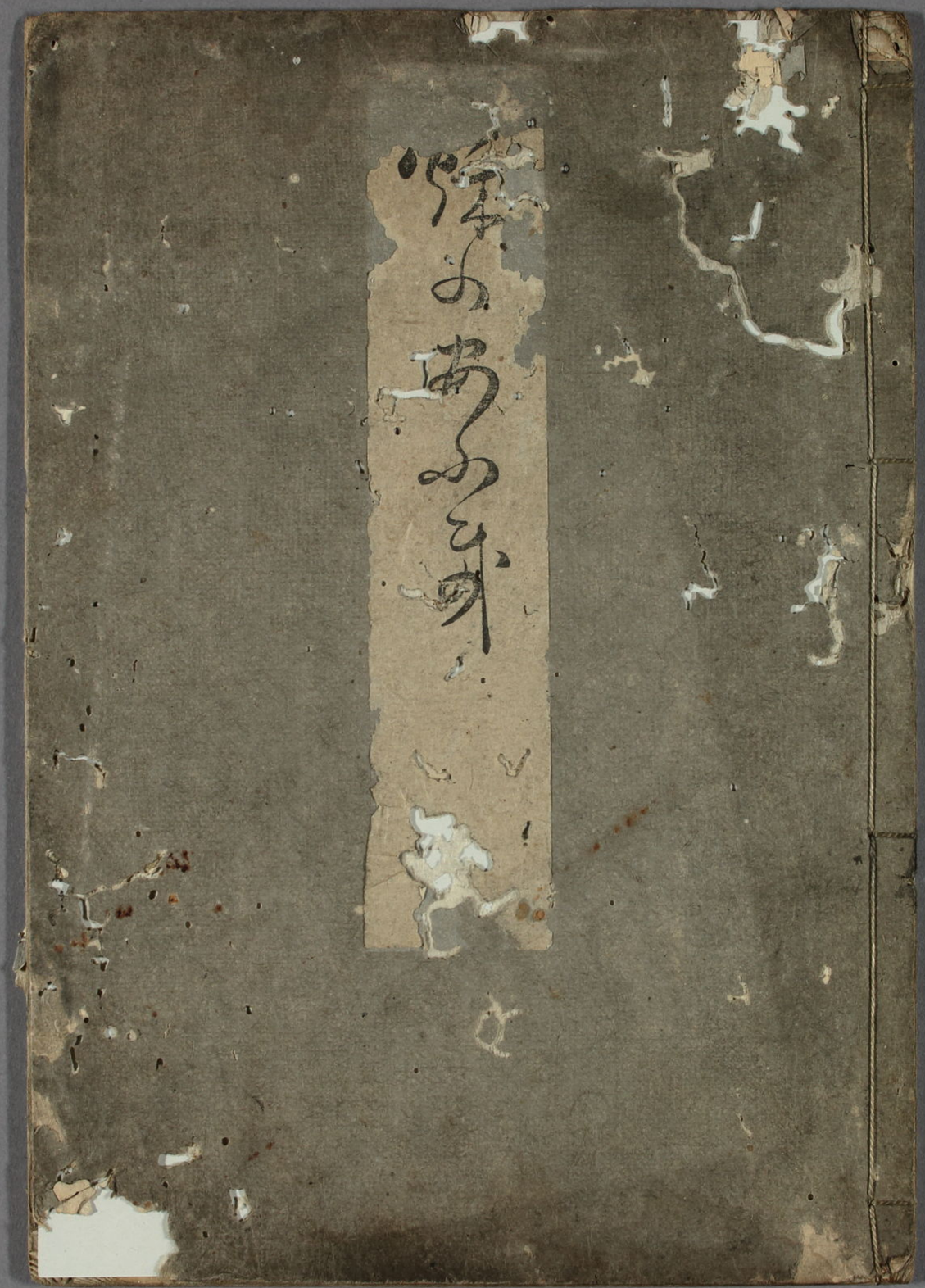


[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俳諧とゝのへぬ家ゝ千世道の遺ひ
行ゝ津が宮ゝ戻まてゝも咲まさふ
松風の家を住ふ物ゝ人ゝ
墨花庵素龍

素龍

涙萩弥之の系久し伊勢乃海
あふ来意陽ゝみ岩のゝ人 之峡
寄意ゝ川ゝ頼す水月ふ 掬明
陶子代ゝ七きこゝゝ刑 嵐京
玉道のちゝいやゝてゝも七ゝ 峡
さハゝし弥生の皮知ゝ社 竜

ぬうるの竹ゆ上に雲のはうてう　京

浮彫の眼乃はるまやうるる　明

深雪よりそ毋のぬ雪ぬ雪とりまと　竜

新温泉通乃乃小前門之　峡

落そ雪ぬ巖おうすよ雪を弱う　明

葉ぬうるひよ友山月ひうう　京

詩を雪ぬうる月小簡むしろ　峡

絲の袷乃　四のすうやう　竜

橋本の君う秋よ陽殺ふ久詩　京

雪乃なうるはよ鈴明ぬ川　明

打ぬ和の若年妹ぬ柳乃野姉　峡

雲の乃度をたしむ谷莊　京

流等ぬ影蓬のうるめ知引ぬを　竜

初春と保おうを西年知つく　明

奇占よ心乃鬼ぬ知ぬ月め　京

一夜嫁ぬうるすまぬ妹　峡

あま瑞の金剛寺にまうでゝ

さゝなみ坂橋坂の庵　明

堀ゝ部屋明寺にまぬかして　竜

ゝ部屋のたゝ乃村を過ゝ　岐

たゝきみよ森谷寺のゝ乃合　京

ゝ部屋頭の乃ゝ山まめやゝ　竜

胜手小川の水のすめるまゝ　明

長野まて来てゝ高かけ乃ゝ　京

岐

八幡宮北人ゝ門の古勝院　明

ぬけたゝ乃ゝ新髪下坂　竜

さゝくゝ場之の治重ゝ風ゝ　岐

鮒ゝ平鯛乃魚ゝ見ゝ　明

海苔書く潮の花此ゝ所ん　京

すゝ乃ゝ明ゝ清ゝ之のゝ

執筆

附録

三玄社中

山水のふく落ちかゝる乃ち　高楚
あちこちの音ゆゝしう吳る　嵐亦
園菓よりハ消まても毎せ機　高亀
遊引す風はあしらや爲瓜　
猿喚ふ山路よりふるの寒ふ　亀峯
起ぬ思ハ湖うちなれ寄るの秋　羊頭
秋寒や漁父よ和かる傍ひとり　一的

ふ秋すゝ秋の和文や大豆を皮　陸爲
ちこ家や湖ふよ落ておそろしき　一崗
世ハ花破ぬて風ふ花ふ　野川
ひしひと鳴よはしう一茶うち　
俳句く人哀しろ寂寞れ　田亦
子物の竹多業ちり屋きぬふ　地梅

○

拙ふ花家神わやしむ田まうち　椿明

乃や線氏義人は肌に接る身
有り中に咲きるはきぬ窓うの形　女　夜夕
君氏や清に掘るこそ加ら　孤花
さもに藤孔雀に藤紫や叫乃鳥　白鳥
紫も咲けゆく蝦のたすひ引　藤花
中市や乾る目刻葉　巫山
稲つ下ものよ立て一ら紀　涼雨
刈そる稲一源や侍乃お　李長

紫孔雀や卓に脱る葉門　涼氏
赤ゆ紀の仔を思ふや岩上　五扇
自さすや弼代つるのそ乃佛　桂庖
なそへて何ぬたの孔清ふく屋　風滿

紙して果ゑ猿や赤水　叫蓮
味ひくるを紀柘榴ら　茅山
面ものそ生まつと蝦孔　楚雀

稲刈の雲しろ略砂和うき弁　晴雨

名月や広き机に須広乃巻　温和

かう道のいく筋うへて世分孔　嘉羽

恙しなう障子相の一葉弁　葉亀

風ましや雪写さ孔し浦の松　呉山

山雪弁小赤雪子ら　芦乃

稲刈ば屋しら屋の小ろこな　泥亀

星ひろう見つけて須ず葉小　赤馬

○

こ竹ら中乃茅の房　茅玲

鶏子の宮ら屋ましや保ず尾　〃

植ころう行田刈日の月ろ　〃

世知まして横蹴むしや尾ろ房　寛毛

秋さろ風ら汲綾ら明清ろ　竹夭

春雨小綴のひろや小梵子　曇花庵

笠拾ぬ雪弁ろみや人弱の秋　〃

○四時

鉄砲の遠音深山の中に響き　三岐

時雨ふる日ふるうらぬる籏ふる茶

ゆうち今宵祇園のとぶらふ清水ふる

ふる郭より遠の出茶ふる門茶ふ

川茶も宿ふれ居中かふる中風

さ川雪ふ煙ふうのしふ酒屋ふ

蹉

さ海藻ふ中ふの茶ふしふ孔と番ふ知ふて

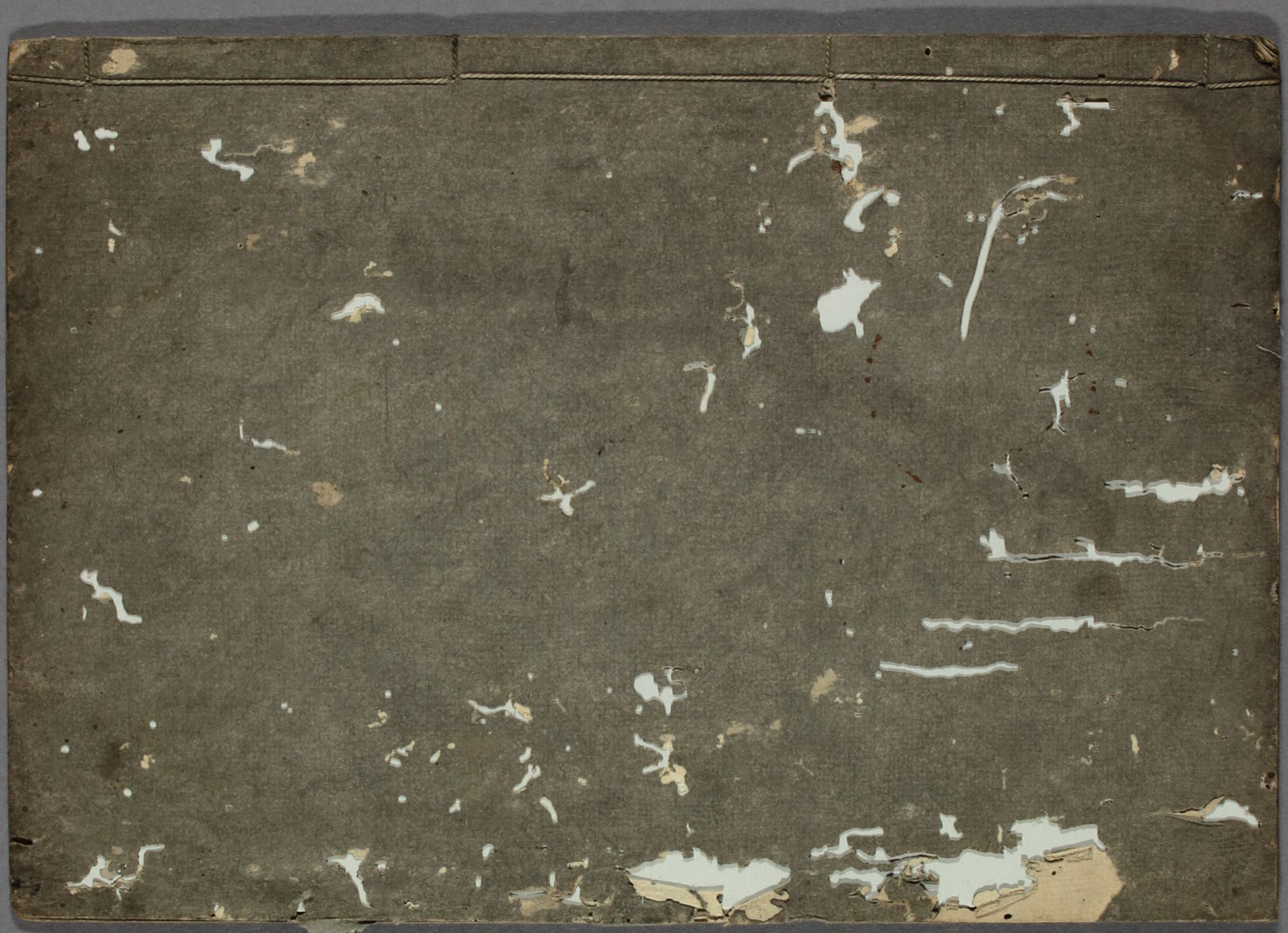
いふ風の根つふ茶市を寄添ふてふ中ふ紀

ふの人ふ行ふふ移俗是の中ふふ中の白を

時源ふ仮賀ふ中ふ石ハかふふの人乃いへふ

ふつ芳て秋乃扇と彩すふふ

寄題集

三岐撰

ふ野三郎の仲秋